

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	アイシン精機(株)西尾新工場	階数	地上2F
建設地	愛知県安城市、西尾市	構造	S造
用途地域	工業専用地域、指定なし	平均居住人員	100 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年8月 予定	評価の実施日	2016年9月16日
敷地面積	28,688 m ²	作成者	林 大輔
建築面積	12,592 m ²	確認日	2016年9月28日
延床面積	13,167 m ²	確認者	林 大輔



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準値 BEE=1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 81%

③上記+②以外の 81%

④上記+ 81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.7

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.2

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>45.2 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	45.2 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	45.2 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音			3.3	0.15				3.3
1.2 遮音			3.0	0.40				
1.2.1 開口部遮音性能		T-2以上を使用している	3.8	0.40				
1.2.2 界壁遮音性能			5.0	0.60				
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			2.0	0.40				
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-				
1.3 吸音			3.0	0.20				
2 温熱環境								
2.1 室温制御			1.7	0.35				1.7
2.1.1 室温			2.5	0.50				
2.1.2 外皮性能			3.0	0.38				
2.1.3 ソーン別制御性			1.0	0.25				
2.2 湿度制御			3.0	0.38				
2.3 空調方式			1.0	0.20				
2.3.1 空調方式			1.0	0.30				
3 光・視環境								
3.1 昼光利用			3.6	0.25				3.6
3.1.1 昼光率		昼光率=2.5%以上	5.0	0.30				
3.1.2 方位別開口			5.0	0.60				
3.1.3 昼光利用設備		トブライト、ハイサイドライトが設置してある	-	-				
3.1.4 昼光利用設備			5.0	0.40				
3.2 グレア対策			3.0	0.30				
3.2.1 昼光制御			3.0	1.00				
3.3 照度			3.0	0.15				
3.4 照明制御			3.0	0.25				
4 空気質環境								
4.1 発生源対策			3.5	0.25				3.5
4.1.1 化学汚染物質		F☆☆☆☆をほぼ全面に使用している	4.0	0.50				
4.1.2 化学汚染物質			4.0	1.00				
4.2 換気			3.0	0.30				
4.2.1 換気量		建築基準法および建築物衛生法をみたす換気量の1.4倍	3.0	0.33				
4.2.2 自然換気性能			3.0	0.33				
4.2.3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.33				
4.3 運用管理			3.0	0.20				
4.3.1 CO ₂ の監視			1.0	0.50				
4.3.2 喫煙の制御		建物全体の禁煙対策がとられている	5.0	0.50				
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ			-	0.30				3.7
1.1.1 広さ・収納性			3.4	0.40				3.4
1.1.2 高度情報通信設備対応			2.0	0.40				
1.1.3 バリアフリー計画			3.0	0.50				
1.1.4 バリアフリー計画			1.0	0.50				
1.2 心理性・快適性			-	-				
1.2.1 広さ感・景観		天井高2.7m以上の上、窓設置	4.6	0.30				
1.2.2 リフレッシュスペース		カフェテリア等のリフレッシュスペースを計画	4.0	0.33				
1.2.3 内装計画		コンセプトを元に内装計画を行い、インテリアパースで検証している	5.0	0.33				
1.2.4 内装計画			5.0	0.33				
1.3 維持管理			4.0	0.30				
1.3.1 維持管理に配慮した設計		維持管理に配慮した設計の取組みが標準以上	4.0	0.50				
1.3.2 維持管理用機能の確保		維持管理機能の確保に配慮した設計の取組みが標準以上	4.0	0.50				
1.3.3 維持管理用機能の確保			4.0	0.50				
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震			3.2	0.31				3.2
2.1.1 耐震性			3.0	0.48				
2.1.2 耐震性			3.0	0.80				
2.1.3 免震・制振性能			3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数			3.3	0.33				
2.2.1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.23				
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.23				
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数が20年以上	5.0	0.09				
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出ダクトは、ガルバリウムダクトを採用	5.0	0.08				
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔		2種類以上にC以上を使用している	3.0	0.15				
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23				
2.4 信頼性			3.6	0.19				
2.4.1 空調・換気設備		熱源種の分散化を行っている	4.0	0.20				
2.4.2 給排水・衛生設備		節水器具を採用。汚水ビットの設置。井水利用。	4.0	0.20				
2.4.3 電気設備			3.0	0.20				
2.4.4 機械・配管支持方法		耐震クラスA	4.0	0.20				
2.4.5 通信・情報設備			3.0	0.20				
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり			4.6	0.29				4.6
3.1.1 階高のゆとり		階高3.9m以上	5.0	0.31				
3.1.2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率0.040	5.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり		4500N/㎡以上	5.0	0.31				
3.3 設備の更新性			4.1	0.38				
3.3.1 空調配管の更新性			3.0	0.17				
3.3.2 給排水管の更新性			3.0	0.17				
3.3.3 電気配線の更新性		仕上材を痛めることなく電気配線の更新・修繕が可能	5.0	0.11				
3.3.4 通信配線の更新性		仕上材を痛めることなく通信配線の更新・修繕が可能	5.0	0.11				
3.3.5 設備機器の更新性		主要設備機器の更新に配慮したルートが設定されている	5.0	0.22				
3.3.6 バックアップスペースの確保		バックアップ設備のためのスペースを設定	4.0	0.22				

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
		Q3 室外環境(敷地内)				-	0.39	-
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI値=0.93		3.0	0.02		-	3.0
2 自然エネルギー利用		トップライト、ハイサイドライトが設置してある		5.0	0.27		-	5.0
3 設備システムの高効率化				4.0	0.42		-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI値=0.79		4.0	1.00		-	
集合住宅の評価(3c)							-	
4 効率的運用				5.0	0.28		-	5.0
集合住宅以外の評価			主要な設備のシステム効率の評価を実施する 建物全体のエネルギー消費量の目標値が計画されている	5.0	1.00		-	
4.1 モニタリング				5.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				5.0	0.50		-	
集合住宅の評価							-	
4.1 モニタリング							-	
4.2 運用管理体制						-		
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護				3.4	0.15		-	3.4
1.1 節水		節水型便器を採用		4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.6	0.63		-	3.6
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	電炉材(鉄骨、鉄筋)		5.0	0.21		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		地業:再生クラッシュラン		3.0	0.21		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体と仕上材が容易に分別可能		4.0	0.25		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.3	0.22		-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない建材種別が4つ以上		5.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68		-	
1 消火剤				-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)		ODP0かつGWPが低い発泡剤の断熱材を採用		5.0	0.50		-	
3 冷媒				3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮				3.7	0.33		-	3.7
①		ライフサイクルCO2概算値:81%		3.0	0.33		-	3.0
2 地域環境への配慮				3.0	0.25		-	
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制	独自			3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制		廃棄物処理負荷抑制に配慮した設計の取組みが標準以上		4.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1 騒音	独自			3.0	0.33		-	
2 振動	独自			3.0	0.33		-	
3 悪臭				3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40		-	
1 風害の抑制				3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制							-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のガラス外に漏れる光への対策		光害対策ガイドラインのチェックリストの過半をみたしている		5.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
② 資源の有効活用				3.7
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化:45.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 良好な室内環境の確保。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 化学汚染物質の発生しない仕上げ材を採用することにより、室内環境の向上を図る。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 階高 H=3.9m以上確保し、壁長さ比率0.040により空間の形状・自由度を考慮。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 見通しの良い環境とし、防犯性に配慮した計画。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 設備システムの効率化により、建築物の環境負荷を低減。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 地業に再生クラッシュランを使用している。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 光害に対し十分な対策をとる。
その他	注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。